

年	課 題	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことや経験したことを相手に分かるように話す。 鉛筆の正しい持ち方や正しい字形、筆順を身に付ける。 助詞を正しく使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「声のものさし」を掲示し、その場に応じた声の大きさを意識できるようにする。また、話を聞いて質問や感想を述べる機会を作り、聞いてもらう喜びを感じさせる。 毎時間、視聴覚教材を活用して正しい鉛筆の持ち方の指導を継続していく。正しい字形や筆順は最初の場面で指導する。また家庭学習で、正しい字形や筆順の定着を図る。 文章を読み返す活動を継続的に取り入れ、自ら間違いに気付き、直すことができるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方を理解し、正確に計算できるようにする。 文章題の題意を的確につかみ、正しく立式する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10の合成・分解を繰り返し練習したり、視聴覚教材で具体的な操作を提示したりして、正確に計算できるようにする。また、ブロックを操作したり、図に描き表したりすることで計算の仕方を理解させる。 数の関係を図や言葉で表し、立式できるようにする。また、考えた式を電子黒板に映す等の方法で共有し、互いの考えを深める機会を設定する。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に目を向け、自然の物を使って遊びを工夫する。 活動や体験を言葉や絵で表現し、それらを互いに交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の不思議さや面白さを実感できる活動を充実させ、科学的な見方や考え方の基礎を養う。 気付いたことや見付けたことを伝え合う活動を、計画的に取り入れる。また電子黒板等で児童の考えを提示し、互いの気付きや考えを共有できるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> のびのびと表現する声や音を大切にしながら、よく聴いてきれいな音や声を出そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱や範奏を聴いたり、鑑賞したりする中で音や声の美しさにいつも浸れるように指導する。 良いと感じたことを言葉にしたり身体表現や自分の奏でる音で表して、より良い表現を目指せるように指導する。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 描いたり作ったりすることを楽しみながら意欲的に活動する。 基本的な道具（のり・はさみ・クレパス）の使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方が身に付く課題を用意し、基礎基本の定着を図る。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> かけっこ、鉄棒、ボール遊び、水遊びなど、運動の特性に応じた技能を身に付ける。 自ら学習を振り返り、次のめあてを立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に応じた動きが身に付くように、スモールステップで学習計画を立てる。 タブレット端末の録画機能で自分の動きを確認するなど、ICT機器を効果的に活用する。 学習カード等を活用し、「めあて→取り組み→振り返り」という学習サイクルをつくる。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く時に、平仮名、片仮名、漢字の使い分けで書く。また、句読点を正しく付けて文章を書く。 物語文の読み取りで、各場面での中心人物の気持ちを叙述から読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の学習で、平仮名と片仮名の使い分け、平仮名と漢字の使い分けを意識させて、取り組ませる。また、作文や授業でのノート指導などで文の終わりに句点をつけることを習慣化させる。 中心人物の気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き、叙述に即して気持ちを読み取らせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> cm、mmやL、dL、mLの単位同士の関係を理解する。 時刻と時間の違いについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムで復習を行う。また単位換算の一覧を掲示するなど、日々振り返ることができるようにする。 学校生活の中で、「時刻」と「時間」の言葉の違いを意識させるよう、時計を見ながら声をかける。模型やデジタル教科書など視覚的な教材を用いる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物の観察の際に、感想ではなく、気付いたことを書く。 グループ活動で、周りの人の意見に耳を傾けて話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 色や形などの観点を示したり、デジタルカメラで撮影した成長記録を提示し、前回の観察時と異なる点に意識が向くように、事前指導を行う。 学級活動の時間などに、グループでの話し合いの時間を取り、意見交流の仕方を指導し、身に付けさせる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの演奏では、一人一人の技能を十分に高める。 自分の課題を見つけて意欲的に取り組み、友達と合わせてよりよい表現をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードを活用し、自分の課題や自己評価を行い、表現の工夫を行えるようにする。 各自が気付いたことや感じたことを共有し、全体でも表現の高まりを実感できるように指導する。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 混色や水加減の調節を意図的に行い、筆で細かいものが描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 混色の仕方や筆のつかい方ができている児童や、教員が手本を示す。その際、書画カメラなどを用いて細かい作業も分かりやすく指導する。また、机間指導の中で個別に指導し、技能を定着させる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒運動では、自分の体を支え、前回りを行う。 ボール遊びでは、ボールを捕るときに目を開けて、手を引いて捕る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの課題のある項目を補うために、体育の授業に取り入れていく。 正しいボールの扱い方の指導を行う。また、上手な児童を手本としたり、タブレット端末で自分の動きを録画して確認したり、学習形態の工夫をする。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことや想像したことなどを文章で表わすとき、文のねじれがなく、主語と述語がはっきりとした文章を書く。また、漢字を使って書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業やチャレンジタイムで、主語と述語を意識させて短い作文を書かせることを繰り返す。また文のねじれや主語の繰り返しに気付くように、電子黒板に具体的な例を提示し、指導する。漢字小テストを毎週実施し、結果を基に弱点を克服することを意識して練習させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料を読み取り、その特色や相互の関連性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で資料を拡大提示し、共通点や相違点を全体で確認し、共通性や傾向を読み取ることを指導する。また読み取ったことをまとめる活動や発表する活動を取り入れ、その際、根拠となる理由を明確にさせるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題を把握し、答えをすぐに出せる児童が多い。友達に自分の考え方を分かりやすく伝える。 友達の考え方を、式や図から読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題把握、見通しをもつ段階で、児童の考えを電子黒板で提示して共有し、全体で確認したり、問題解決の方向性を話し合ったりする。 自力解決の前の話し合いを充分に行い、友達の考えを知る経験を重ねる。そして表した式や図から考え方を読み取れるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 植物に対して、興味をもって観察している。植物の体と広く捉えて、そのつくりについて正しく理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラで撮影した植物の様子や観察カードを通して気付いたことを、話し合い活動を通して一般化し、共通理解させるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で演奏を聴き合って、よりより表現にしようとする。 音楽表現で工夫したいことを、音楽の仕組みや要素を掴んで伝えたり表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことが表現に活かされたり、学習の積み上げが成されるように教材選択や発問の工夫をする。 歌唱や器楽の演奏では、基礎的な能力の定着を図れるよう児童の実態を細やかに把握し、一人一人に適切な指導を継続的に行う。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> どのような題材でも豊かな発想で取り組み、友人の想いを認め合うことができる。豊かな発想を引き出す。また、絵の具が思い通りに使って平面作品を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想でつまずいている児童には、発想の例を示し他の児童の作品を見せる。また個別に想いを聞き取って発想のヒントをだす。絵の具の使い方については混色の方法、水加減等を視聴覚機器を活用して視覚的に示し個別に指導する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてを設定して運動したり、友達のよい動きを取り入れたりして学習する。 グループで作戦を立てたり、運動の仕方やルールを工夫したりして学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範となる動きを紹介したり、自分の動きをタブレット端末で録画して確認したりすることで、よい動きや改善点を見つけられるようにする。 作戦が立てやすい単元計画をたて、学習資料で適切な情報を提供することで話し合いが円滑に進められるようにする。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を正しく書く。 多くの文を書いたり文の構成を考えながら書いたりする。また接続語を用いたり句読点や段落を変えたりして書く。 大事なことを落とさずに聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に一度漢字テストを行い、習得を確認する。未習得の児童には個別に課題を与える。 自分の書いた文を記号を使って推敲させ、自分の書いた文を見直しさせる。文を書くときにはじめ、中、終わりの構成で書く活動を繰り返し行う。 話の中心は何か、その都度確認する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表から必要な情報を読み取る。 学習したことを新聞やパンフレットにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る視点をはっきりさせ、発表の際には表やグラフのどこに根拠があるのか示しながら説明させる。 学習内容を自分の言葉でまとめるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算を正しい手順で行う。 四角形や平行、垂直の定義付けや、コンパスを用いて正しく作図する。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルを活用し、何度も繰り返し問題を解かせる。 チャレンジタイムで、「四角形を調べよう」の内容を扱い、復習させる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心のない分野についても意欲をもって取り組む。 グループで協力して実験や観察行う。 既習事項を確実に身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元導入時、単元全体の見通しをもたせ、児童自らがめあてを設定し、解決したいという意欲をもたせる。 実験、観察時にグループ全員が必ず行うことにする。 単元途中で、知識定着小テストを行い定着度をチェックし、それを踏まえた後、理解度の低かった事項については繰り返し指導する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や器楽での表現にあたり、楽譜を読んだり正しい指使いをしたりしながら、音程を正しく取って発声に気を付けて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数ごとの表現や個別の表現を聴取し、児童自らが課題をつかみながら演奏活動に取り組めるように指導する。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 発想豊かに表現を楽しむことができる。自分の表現したいことを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 技法を実物投影機で実演したり、資料で示したりする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> どの活動も意欲的に取り組んでいる。ボールの操作や道具を上手に使った運動をする。 ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。 勝敗に関わらず、ゲームの結果を受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールや道具の正しい操作の仕方を指導するとともに、運動量を確保し、技能を習得する時間を設ける。 ゲームごとに作戦を立てる、振り返りをする時間を確保する。また、タブレット端末を使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。 仲間と運動する楽しさや相手がいることを意識させて、他者を尊重する心を育む。 	

5年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 4、5年生の1学期の漢字を正しく書く。 伝えたいことが明確に伝わるように、声の大きさや抑揚を工夫して、聞き手の反応をうかがいながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムの時間でベーシック・ドリルを活用し、読み・書きの復習を行う。 発表場面では、発表原稿ではなく、発表メモを基に考えながら発表する学習を取り入れる。また、タブレット端末で自分の話す姿を撮影し、繰り返し練習する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える。 既習事項を確実に身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る視点を明確にして資料を読み取り、それらを電子黒板に提示し、比較して考えをまとめる学習活動を適宜取り入れる。 県名や海洋名などを授業の導入で確認する。また、プリントを用いて確認する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な小数の乗法、除法の計算はできる。出た答えを概数で求め、わられる数とわる数の関係を考えて立式する。 話をまとめて図を用いて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムや授業初めの時間を使って、タブレット端末の問題や復習問題に取り組み、定着を図る。 答えをだすことだけでなく、図を用いて考えを説明することを目標にした授業を行う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が高く、既習事項が定着している児童も多い。科学的な見方や考えをさらに身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果から考察を思考させる時間を十分確保し、ノート指導を徹底する。 単元途中で、科学的思考を確認する小テストを行い、個に応じた指導を行う。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 譜読みや声を出す時の身体の使い方、指づかいなどの基礎的な知識や技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の技能を確認する時間や個別指導の時間を取り、到達度をチェックし、自分の課題が分かるようにする。また、題材や各時間の指導計画を細やかに立てる。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 新しく習った技法の良さを生かして製作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 技法の良さを生かすための指示を、数や大きさ等で具体的に示したり、児童の手元で手本を見せたりして指導する。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に学習意欲があり、進んで実習に取り組んでいる。基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 実技の知識や技能のよりよい伝達のために、視聴覚教材を活用する。グループ実習では、安全に配慮し、手順や技能が正しくできているか、個に応じて指導する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体を支えるような、力強い動きを持続する。 チームの学習を通して、認め合い、励まし合いの場面は見られるので、教え合いができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動に、2・3人組で互いを持ち上げる、運ぶなどの体力を高める運動に継続的に取り組む。 学習のふり返りの時間でよい動きを紹介し、見るポイントや声かけの具体例を示す。 	

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生までの漢字を、正確に書き取る。 ・日本特有の年中行事を知る。 ・相手の意図を理解しながら話を聞く。 ・感情表現を表す言葉を用いて、起承転結の整った文章を書く。 ・段落相互の関係や登場人物と情景を照らし合わせて読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週3回の漢字テストを実施する。5問の出題数で、確実な習得を図る。 ・社会科と併用して、百人一首など年中行事に触れる機会を設ける。 ・話の聞き方について年間計画を立てて、学年で指導法を統一して指導する。 ・学校司書と連携し読書活動を推進する。段落相互の登場人物の気持ちを考えたり指示語に対して語句を抜き出したりする学習に取り組む。 ・作文用紙に書く前に、イメージマップを用いて事象と自分の気持ちを書きだす作業を設け、気落ちの広がりを図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の事実や重要語句を覚え、その時代の背景との因果関係を考える。 ・絵図を読み取ることができる。そこから考えられることを思考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムを利用して既習事項の確実な定着を図る。また、単元終盤では確認プリントを用意して取り組ませる。 ・因果関係を考えたり、絵図を読み取ったりする前に、視点を与える。また、少人数グループで自分が考えたことを発表し合う機会を設け、予想を立てさせる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・公式や計算の仕方を理解し、文章問題を立式して正答する。 ・なるべく小さい数で割ったり桁数が多い数同士でかけたりするなど、効率的な計算方法の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムで既習事項を復習したり、少人数算数で習熟度別の学習体制を強化し、個々の習熟度を把握する。 ・最少公倍数や逆数を活用する問題に繰り返し取り組んだり、タブレットドリルを活用して、学年を遡って学習できたりするようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高く科学的な見方や考え方が育っている児童も多い。既習事項さらに身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元途中で知識定着度を確認する小テストを行い理解度を把握する。理解度の低かった事項については既習プリントを用意し、学習の積み重ねを図る。また、実験、観察の結果、分かったことをノートにまとめる活動に取り組ませ、知識を定着させる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に音楽表現に向かうことができる。各々どのように表現したいのか思いをもち、音や言葉で伝えながら友達と一緒に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自己評価しながら自ら課題を見つけて表現活動に向かえるようにする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・工作の技能は身につけている児童は多い。平面作品の技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を用いて技法を視覚的に伝えたり、個別に指導することで技能を高めていく。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の手伝いに積極的に取り組む。 ・裁縫や調理などの基本的な技術を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の状況や様子について学年便りで知らせる。また、学習や実習後に「リトライカード」や「お手伝いカード」を配布し、継続して活動できる機会を設ける。 ・ICT機器を活用して、器具の使い方や作業の仕方などを視覚的に捉えさせ、自主的・自発的に活動できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム中の児童同士の声かけをさらに活発にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームでは「はじめのルール」を基盤に、ゲームを通してルールや動きのコツをつかませ、さらなる意欲向上やゲームの効率化を図る。 ・学習形態を工夫する。ペアやグループで協働学習を推進する。練習場を工夫させたり、タブレット端末を使って動きの様子を見合ったりして、技能の向上を図る。 	